科目名			担当教員	
心理学的支援法Ⅰ			山本　良	
科目コード	単位数	スクーリング単位	履修方法	配当年次
FF3554	2	1	RorSR (講義)	2年以上
生成AI利用レベル		レポート　：　C	試験（スクーリング含む）　：　C	

※2018年度以降に入学した方が対象の科目ですが、2017年度以前入学者で「心理療法」（科目コード：FF3520、4単位）を単位修得していない方は、この科目を履修登録できます。単位修得済の方は履修登録できません。

※この科目は、スクーリング受講にあたって条件がありますので、ご注意ください。

科目の概要

■科目の内容

「心理支援」「心理学的支援法」という言葉は、我が国の心理学の専門用語としては比較的新しいものです。従来は臨床心理学などに基づく心理学的な支援・援助は、多くが「カウンセリング」「心理療法」と呼ばれてきました。国家資格としての公認心理師が法的に位置づけられ、2018年4月より養成カリキュラムがスタートしました。その中で、心理学に固有の、カウンセリング・心理療法・他の支援方法を包含する新しい用語として名称化されたものが、「心理支援」「心理学的支援法」です。

心理的な問題で苦しむ人々を支援したり、その人固有の豊かな生き方を模索することを支えたりする“こころの専門家”になるための土台となるのが、この「心理学的支援法」という科目です。

日常生活の中で友人や家族の悩みの相談に乗ることはよくあることでしょう。心理学的支援法はそれと何がちがうのでしょうか。この科目では、心理学的支援法とは一体何なのか、というところから、歴史、様々な理論と方法、実際行われる作業までを広く学びます。たとえるなら世界地図を見るようなものです。五感と想像力を働かせて、面白さや意味深さを感じ取ってください。その中で上の問いへの答えが実感できるはずです。この科目は、その先の一つ一つの国を訪れるための入り口なのです。

■到達目標

１）代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界を説明することができる。
２）訪問による支援や地域支援の意義について説明することができる。
３）良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法について述べることができる。
４）プライバシーへの配慮について説明することができる。
５）心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援、心の健康教育について解説できる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「人間理解力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価40%＋スクーリング評価 or 科目修了試験60%

■教科書・参考図書

【教科書】（「心理学的支援法Ⅱ」と共通）

末武康弘『心理学的支援法―カウンセリングと心理療法の基礎』誠信書房、2018 年

（スクーリング時の教科書）配付資料を使用しますが、上記教科書を参考程度に使用します。

【参考図書】

乾吉佑・氏原寛・亀口憲治・成田善弘・東山紘久・山中康裕編『心理療法ハンドブック』創元社、2005 年

鑪幹八郎・名島潤慈編著『心理臨床家の手引（第 4 版）』誠信書房、2018 年

スクーリング

■スクーリング受講条件

スクーリング申込締切日までに、下記の科目のレポート提出済であること。

2018 年度以降入学者：「心理学概論 A」「心理学概論 B」「福祉心理学」「臨床心理学概論Ⅰ」

2017 年度以前入学者：「心理学概論」「福祉心理学」「臨床心理学」

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	心理学的支援の概要と実際	支援の領域と方法、支援の基礎となるもの
2	精神分析／精神力動論	無意識の発見とこころのシステム
3	ライフサイクル論①	ライフサイクルとは、乳児期
4	ライフサイクル論②	幼児期
5	ライフサイクル論③	学童期～思春期
6	ライフサイクル論④	青年期～成人期
7	ライフサイクル論⑤	壮年期～老年期
8	日常生活と精神力動的人間理解	支援を行う自分自身について、日常生活の中で理解を深める
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

パワーポイントおよび配付資料を中心に講義を進めます。教科書は参考程度に使用します。

■スクーリング　評価基準

スクーリング中に学んだ内容から出題します（配付資料、自筆のノート持込可）。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10 時間）

教科書の第 1～5 章、第 8 章、第 11 章を必ず読んできてください。

レポート学習

■在宅学習 15 のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	心理学的支援法への誘い（第 1 章）	心理支援や心理学的支援法が求められるようになった背景と、心理支援・心理学的支援法とは何かを学ぶ。	心理学的支援法の概要を理解する。
2	心理学的支援法の特質（第 2 章 2-1）	日常会話や相談と異なる心理学的支援法の特質を学ぶ。 心理学的支援法と他の専門的な対人的支援法との異同について学ぶ。	心理学的支援法の特質を理解する。
3	心理学的支援法の効果と限界（第 2 章 2-2・3）	心理学的支援法にどのような効果があり、どのような限界があるのかを学ぶ。	心理学的支援法の効果と限界を理解する。
4	心理学的支援法の対象①（第 3 章 3-1～3-2⑵）	心理学的支援法が対象とする心理的問題の背景や成因を学ぶ。 幼児期・児童期・思春期・青年期にみられる特徴的な心理的問題について学ぶ。	心理学的支援法が対象とする心理的問題についての概要を知り、幼児期から青年期に特徴的な心理的問題について理解する。
5	心理学的支援法の対象②（第 3 章 3-2⑶～3-3）	成人期・高齢期にみられる特徴的な心理的問題とその他の心理的問題について学ぶ。	成人期と高齢期に特徴的な心理的問題とその他の心理的問題について理解する。
6	心理学的支援法の発展①（第 4 章 4-1）	心理学的支援法としての心理療法（サイコセラピー）とカウンセリングはどのような歴史的背景から生まれ、発展してきたのかを学ぶ。	心理療法とカウンセリングの生まれた歴史的背景と発展について理解する。
7	心理学的支援法の発展②（第 4 章 4-2）	心理療法（サイコセラピー）とカウンセリングが合流して発展していく歴史的展開について学ぶ。 心理療法とカウンセリングの共通点と相違点について学ぶ。	心理療法とカウンセリングの異同を知り、両者の合流と歴史的展開について理解する。
8	心理学的支援法のさまざまな理論と方法①（第 5 章 5-1・2）	心理学的支援法としてのカウンセリング／心理療法の海外と日本における第４章で扱った時期以降の現在までの発展について学ぶ。心理学的支援法の主要なパラダイムにはどのようなものがあるかを概観する。	海外・日本でのカウンセリング／心理療法の現在までの発展を理解し、心理学的支援法の 4 つの主要な立場を知る。
9	心理学的支援法のさまざまな理論と方法②（第 5 章 5-3）	心理学的支援法の４つの主要なパラダイム、それぞれの特徴と、それぞれに含まれる理論・方法・提唱者を学ぶ。	心理学的支援法の 4 つの主要なパラダイムの特徴と、それぞれに含まれる理論・方法・提唱者を知る。
10	心理学的支援法の主要理論①（第 10 章 10-1）	4 つの主要な理論の一つ「その他の理論・方法」のうち、家族療法とブリーフセラピーについて学ぶ。（3 つの主要な理論は心理学的支援法Ⅱの学習内容となっている。テキスト第 6～9 章）	家族療法とブリーフセラピーについて理解する。
11	心理学的支援法の主要理論②（第 10 章 10-2・3）	4 つの主要な理論の一つ「その他の理論・方法」のうち、さまざまなクリエイティブセラピー（表現・芸術療法）と現代的で統合的な諸理論について学ぶ。	さまざまな表現・芸術療法と、現代的・統合的な理論である交流分析、対人関係療法、動機づけ面接などについて理解する。

12	心理学的支援法の主要理論③ （第 10 章 10-4・5）	4 つの主要な理論の一つ「その他の理論・方法」のうち、さまざまなエスノセラピー（民族文化療法）と、折衷的・統合的・多元的アプローチについて学ぶ。	日本独自の心理療法である森田療法・内観療法について理解する。また特定の理論・方法に拘らない実践方法について理解する。
13	心理学的支援法のプロセスと実際① （第 11 章 11-1⑴ A、⑵、11-2⑴）	心理学的支援法のプロセスについて総合的な観点から学ぶ。（主要な 3 つの理論的立場（パーソンセンタードセラピー、精神力動的セラピー、認知行動療法）によるプロセスの捉え方は心理学的支援法Ⅱで扱う。第 11 章　11-1⑴B、C、D）心理支援の初期の段階における実際と留意点について学ぶ。	心理学的支援法の全体的なプロセスと、初期段階における実際的作業及び留意点について理解する。
14	心理学的支援法の実際 （第 11 章 11-2）	心理支援の探求・展開・終結の三段階における実際と留意点について学ぶ。	心理支援の初期段階以降の終結までの三段階での実際的作業及び留意点について理解する。
15	心理学的支援法をさらに学ぶために （第 12 章）	専門的な理論と方法を修得するために、今後どのように心理学的支援法の知識的学習を深め、体験学習とトレーニングを積み重ねていけばよいかについて学ぶ。	心理学的支援法の修得のための、今後の具体的な学び方を理解する。

■レポート課題

1 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
2 単位め	心理学的支援を行うにあたり、総合的観点から見たプロセスの 4 段階のそれぞれにおける具体的作業と留意点について 1,800～2,000 字以内でまとめなさい。その際、心理学的支援法の効果と限界、あなたが心理学的支援を行う際に大切にすべきと考える事柄についても記載すること（本レポートでは解答文だけで上記字数を満たす必要があります。題目や余白、引用文献等は文字数に含めることはできません。字数が守られていない場合は、採点対象となりません）。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

【1 単位めアドバイス】

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

また、教科書巻末の用語集をよく読んでください。各章の末尾の理解度確認テストで 8 問以上正解できるようにしてから、客観式レポート課題に解答してください。

【2 単位めアドバイス】

テキストをよく読み、重要なポイントを逃さずに要点をまとめてください。

頭で理解しようとするだけでなく、実際に自分が心理支援を行っているところや受けているところをイメージしながら、自らの血肉となるような理解を目指してください。

科目修了試験

■評価基準

用語と内容を正しく理解し、記述していること。また、具体例を求められている問題では、具体例と全体的な説明の両方が的確に関連付けられ、記述されていることが評価されます。